つむぎ通信 vol.19

在宅連携センター「つむぎ」
TEL/**053-451-2807** FAX/053-451-2808
✉soudan@hamamatsucity-medical-co.jp
在宅連携センターつむぎ浜松 検索

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として2015年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。つむぎホームページは**こちら**から ➡ https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/

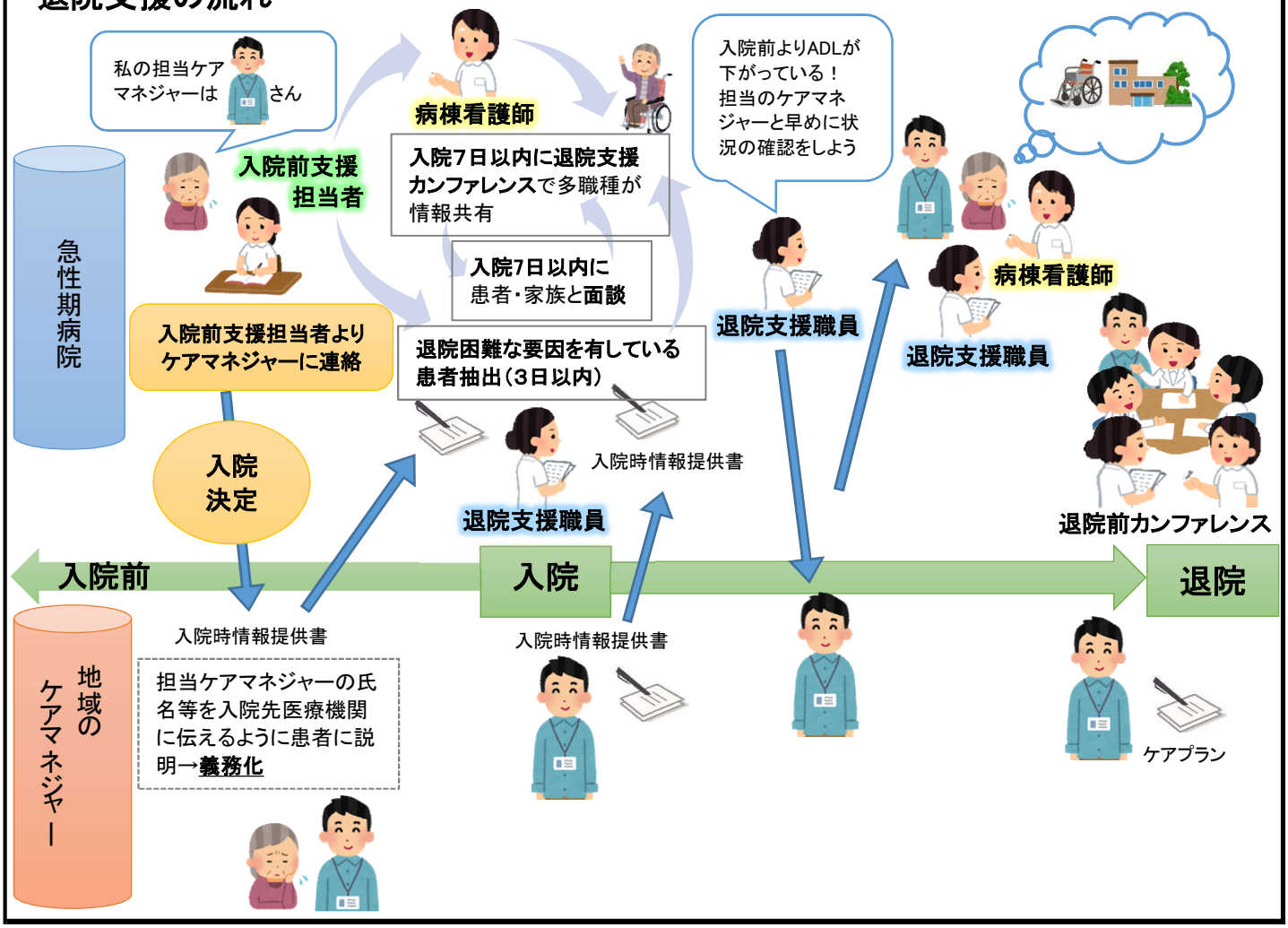
退院支援看護師？退院支援職員？？ってどんな人？？

医療介護・福祉関係者の皆さんは急性期病院から上記を名乗る職員の連絡を受けたことがあると思います。「連携したことがあるけど、病棟の看護師と何が違うの？相談員ではないの？」と、つむぎへご質問をいただきます。

つむぎへの相談の中で、地域の支援者の方が病院のどの役割の職員と話をしているのかわからないまま支援を進めている場合もありました。

退院支援職員（呼び名は病院によって異なります）は、入退院支援加算１を算定している病院の場合、入退院支援及び地域連携業務に専従する職員（看護師または社会福祉士）を各病棟に専任で配置し病棟看護師と連携して入退院支援を専門に行っています。

退院支援の流れ



＜裏面に続きます＞

「つむぎ」によくいただく相談について

Q. インスリンを注射する必要がある。利用できるショートステイ先はある？

Q. 透析のため通院が必要。家族が旅行で不在のために自宅で１人では暮らせない。
　レスパイト先はある？

Q. 神経難病のため頻回な内服が必要。自分で薬の管理ができなくなってきた。
　入所できる施設はある？

つむぎから確認させていただくこと
　医療行為が必要な方の場合
　　①「どのような処置（具体的に、詳細に）」
　　②「いつ（朝？寝る前？）」
　　③「頻度（毎朝？３日おき？減らすことは可能？）」

この具体的情報により利用先を選定していくことになります。これらの情報が抜け落ちていると、対応できる事業所・入院入所先の正しい選定ができなくなります。受診や治療の情報は命に直結することも少なくありません。ぜひ①②③について、正確な医療の情報を収集してみてください。

在宅連携センターつむぎでは、各種施設等に対応が可能な医療行為についてのアンケートを実施しています。その結果等をもとに皆さんの相談に対応していますので、お気軽にご相談ください。

認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練へ参加しました

令和7年1月22日に、和地山公園にて開催された「認知症ひとり歩き（徘徊）模擬訓練」（地域包括支援センター佐鳴台主催）へ参加させていただきました。

地元自治会の方をはじめ、地域の介護保険サービス事業所の職員、地域包括支援センターの職員のほか、近隣の一般事業所の方など総勢50名ほどが訓練に参加されました。

まず、声掛けの仕方の基本（3つのない…「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」）を学びました。その後、声かけをしてもあまり話さない方、すぐにお友達のように話しかける方など、タイプの異なるひとり歩き役の方に全員が声掛けをして、適切な場所へ連絡する模擬訓練を実施しました。

訓練を通じて、相手に合わせて話をすることが一番大切だと感じました。それ以外にも、穏やかな口調で接する、後ろから声をかけない、答えをゆっくり待つなど、対応する際のコツなども学ぶことができました。

内山　千春　／　看護師
- 趣味　K-POPの小物収集
- 最後の晩餐何食べる　ホッケの開き
- ご挨拶

４月から配属されていますがまだまだ不慣れです。ひとつひとつの相談を大切にして、地域の問題提起ができるようにしたいです。

船越　利保代　／　事務員
- 趣味　ネコ
- 最後の晩餐何食べる　練り切り
- ご挨拶

皆さんからの相談を丁寧に聞き取り、良い支援に繋がるよう努めたいと思います。